

1. 略歴

1997年3月	東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 卒業
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 入学
1999年3月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 修了
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 進学
2001年4月	日本学術振興会特別研究員 DC2 (東京大学、至2003年3月)
2002年3月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 PD (九州大学、至2004年3月)
2004年4月	鹿児島大学法文学部人文学科助教授
2007年4月	鹿児島大学法文学部人文学科准教授
2012年9月	ハワイ大学マノア校歴史学科客員研究員・米国国務省東西センター太平洋諸島開発プログラム 客員研究員 (フルブライト奨学金研究員プログラム、至2013年2月)
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授
2019年4月	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻兼任

2. 主な研究活動

a 専門分野

宗教史学・宗教学人類学・宗教民俗学、慰霊・死者儀礼の継承、日本と太平洋域の宗教文化

主な研究活動は大きく以下の3つのテーマ群についてである。

(A) 戦争や災害による犠牲者に対する態度、(B) 現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性、(C) 島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触、(D) 世俗的空間における宗教性の表出

b 研究課題

具体的な研究課題は以下のとおりである。

(1) 「(A) 戦争や災害による犠牲者に対する態度」に関わる研究

遺骨収集・戦地慰霊において、遺族や戦友といった戦死者を取り巻く直接的関係者ばかりではなく、宗教者・旅行業者・行政といった第三者がどのように関与するかをめぐり、次世代へどのように継承されようとしているかをめぐり、調査・考察を行っている。その際、日本人による遺骨収集や戦地慰霊の状況と米豪や太平洋諸島の状況との国際比較、次世代継承に関する宗教体験の伝承や宗教組織の継承などとの比較、戦地慰霊に関する聖地巡礼との比較を行っている。

(2) 「(B) 近現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性」に関わる研究

九州をおもなフィールドとして、近現代の地域社会のなかで人びとがどのような信仰実践や宗教的行為を行ったかについて、そうした実践を支える日常生活とともに調査・考察している。とりわけ、民俗社会を基盤とした地域が、戦争や公害、自然災害などの歴史的経験からのレジリエンス(回復力)をどのように発揮しているかということについて、博士論文で取り上げた長崎の原爆慰霊を視野に入れながら考察しようとしている。

(3) 「(C) 島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触」に関わる研究

奄美群島とマイクロネシア地域を主な対象としながら、大航海時代以降のヨーロッパ人のグローバルな移動に端を発する人的交流の活発化のなかで宗教的接触状況が地域の宗教性のあり方にどのような影響を及ぼしているのかについて比較宗教的な理解を目指している。

(4) 「(D) 世俗的空間における宗教性の表出」に関わる研究

博物館・美術館における宗教的文物の展示をめぐる社会関係と、世俗的な戦争博物館・平和資料館等における慰霊・追悼の側面の考察を通して、ミュージアムという世俗的空間において、現代人の宗教性がどのように表出しているのか(あるいはしていないのか)を考察しようとしている。

c 概要と自己評価

(1)は博士論文の研究課題の延長上にあるものだが、対象地域の拡大と継承という宗教学的テーマへの深化を図りつつある状況である。2010～12年度に代表を務めた科研費基盤研究と、2012年度に滞在したハワイ大学での研究によって研究内容も研究ネットワークもさらなる展望が開けつつある。複数の単著としてまとめる予定である。

(2)(3)はさまざまな研究プロジェクトへの関わりから徐々に輪郭が浮かびつつある、ポスト博士論文の研究テーマであるが、モノグラフや翻訳の作業を重ねて体系化を図っているところである。将来的には九州を窓口としてアジア・太平洋を視野に入れた日本宗教史の構想につなげようとするものである。

(4)は、共著の論文集におけるモノグラフを数本刊行したが、2019年度から兼任となった文化資源学と連携しつつ、ヴァンキュラー宗教研究の視点も組み込みながら、今後の積極的に進展めざしている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、伊藤聡・佐藤文子編、『日本宗教史5 日本宗教の信仰世界』、吉川弘文館、2020.11

共著、方法論懇話会編、『療法としての歴史〈知〉—いまを診る』、森話社、2020.12

編著、島藺進・末木文美士・大谷栄一・西村明編、『近代日本宗教史5 敗戦から高度成長へ』、春秋社、2021.3

共著、長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子編、『宗教性の人類学—近代の果てに、人は何を願うのか』、法蔵館、2021.4

共著、東京大学文化資源学研究室編、『文化資源学—文化の見つけかたと育てかた』、新曜社、2021.10

編著、蘭信三・石原俊一・瀬俊也・佐藤文香・西村明・野上元・福間良明編、『シリーズ戦争と社会第5巻 変容する記憶と追悼』、岩波書店、2022.4

(2) 論文

西村明、「架橋としての視覚物—戦地訪問映像を中心に」、『日本オーラル・ヒストリー研究』、16、2020.9

西村明、「記憶とたましい—戦争死者の遺骨をめぐる対応から考える」、『ひらく』、4、2020.12

西村明、「疫病で検出される信仰世界—近代日本のコレラ流行を中心に」、『宗教学論集』、40、2021.1

西村明、「「戦争体験」と慰霊に対する宗教学的アプローチの再検討」、『理論と動態』、14、2021.3

西村明、「近代日本におけるコレラの流行と宗教」、『宗教研究』、95(2)、2021.9

西村明、「戦没者慰霊と紀元節—三笠宮崇仁にとっての軍隊と学問」、『思想』、1177、2022.4

(3) 学会発表

国内、西村明、「出身地域から「日本の宗教」を捉え直す—島原半島調査から」、日本宗教学会第79回学術大会、駒澤大学（オンライン）、2020.9.19

国内、西村明、「疫病で検出される信仰世界—近代日本のコレラ流行を中心に」、駒澤大学 総合教育研究部・文化学部 門主催公開講演会（共催：駒沢宗教学研究会）、2020.11.6

国内、西村明、「死者と生者をつなぐアート—多様な慰霊を生み出す想像力と創造力—」、現代民俗学会第51回研究会、オンライン、2020.11.7

国内、西村明、「近代日本の感染症と宗教」、国際宗教研究所シンポジウム「新たな感染症の時代の宗教」、2021.2.20

国際、西村明、「衛生と信仰のはざま—近代日本宗教史に学ぶ」、神道国際学会第25回国際神道セミナー「神々と伝染病 II」、関西大学東京センター（オンライン併用）、2021.3.9

国内、西村明、「政教分離フィルター—濾過後の残留宗教性と芸術」、美学会第72回学術大会シンポジウム「新・限界芸術論」、東京大学（オンライン）、2021.10.10

国際、Akira Nishimura, “Vernacular Attitudes toward Remains in Japan: Considering Historic Cultural Background of the Politicization,” International Conference Actions for the Missing: Scientific and Vernacular Forms of War Dead Accounting, NIOD Institute for War, Holocaust and Genocide Studies, Amsterdam（オンライン参加）、2022.6.8

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東北学院大学、「平和学」、2020.9、2021.9

非常勤講師、東京藝術大学、「宗教学」、2021.8～

(2) 学会

国内、日本宗教学会、『宗教研究』編集委員長、2020.9～

国内、日本宗教学会、男女共同参画・若手支援ワーキンググループ委員、2020.9～

国内、西日本宗教学会、『西日本宗教研究誌』編集委員、2021.3～

(3) 行政

鹿児島県伊仙町、立案、伊仙町誌編纂審議会委員、2021.8～

(4) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

公益財団法人国際宗教研究所、理事、2020.6～